

環境学の

# 授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】

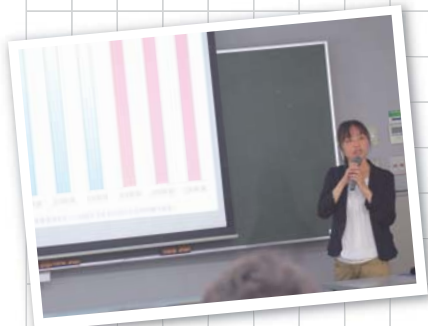
## 「環境学のフロンティアⅡ」

### テーマ 持続可能な社会とソーシャル・ビジネスの可能性

環境に関連した諸学問分野の専門知識を広く学ぶことで、環境問題の構造と本質を体系的に理解することを狙いとする体系理解科目「環境学のフロンティア」。地球、都市、社会の3つの専攻で学ぶ学生たちは、この授業を通して、自分の専門分野では学ばないようなテーマに出会い、広い視野から考えを深める。まさに文理連携の研究科ならではの授業だ。

授業のプログラムは、3専攻の先生が持ち回りで作る。たとえば地球環境科学専攻の担当で「二つの温暖化—地球温暖化とヒートアイランド」、都市環境学専攻は「次世代エネルギー戦略」、社会環境学専攻は「持続可能な地域社会」と、バラエティに富む。「その専攻の特色が出るようなテーマを設定してもらい、専門分野以外の学生にもわかりやすく授業してもらいます」というのは、科目設置当初からかかわる涌田幸宏准教授。

今年、涌田先生が企画したプログラムは、近年脚光を浴びるソーシャル・ビジネスに焦点をあてたもの。再生可能エネルギーや地域活性化の切口中で、研究科の教授陣と企業やNPOなど最前線で活躍する外部講師を招き、NPOの活動と、それを支援する社会的な仕組みについて考えていく。「学生に言いたいのは、当事者意識を持って、気づけ、本質を考えろ!です。どんな問題意識を持って、どう課題解決の道を考えるか。それはどんな場面でも求められています。だから、今、その力をつけてほしい」。学生たちは、最前線で社会と関わる講師たちに、新鮮な刺激を受けている。



▲互いの文化的違いを認め合い、地域社会で共に生きる大切さを語る河村さん。



▲「まだ学生だから社会に関心がなくていいんですか? 他人事でいいんですか?」と問いかける木村さん。

オムニバス形式で、グループワークも交えながら行われる授業。講師には、コミュニティ・ユース・バンク momoの木村真樹さんや、多文化共生リソースセンター東海の河村 槇子さんなど、第一線で活動するNPOの人たちも。

吉岡 歩さん  
yoshioka ayumi

社会環境学専攻 心理学講座

#### ワークショップに参加して



ソーシャル・ビジネスという言葉は、あまり聞き慣れていなかったもので、初めはうまくイメージが掴めませんでした。しかし講義を受けてみると、言葉を知らなかっただけで、自分の身近な問題が取り上げられていて、専門家の視点から見る社会問題について知ることができました。これらの社会問題は決して自分に関係のないことではなく、将来の自分、または自分の子どもが直面するかもしれないことに、早いうちから目を向けることが大切だと学びました。